

リーディングスキルテストの取組について

1 今年度の取組について

R S の視点を意識した授業改善

(1) 今年度の授業改善の方向性の確認

⇒ 「相馬メソッド」(資料1)に基づく授業改善を進める。

(2) 実践事例のデータベース化

⇒ 各校、各先生方の実践をデータベース化することで、日々の授業実践や教材研究に役立てるとともに、指導力向上につないでいく。

① 教科書の「親密度の低い言葉・つまづきやすい言い回し」等をまとめた「授業お役立ちシート」(資料2)

② 学習指導案

③ 「R S やってみましたシート」(資料3) などを掲載

※ 今後も実践を重ねアップデートしていく予定

(3) 指導主事による学校訪問

⇒ 各校の計画で研究授業が進められており、要請があれば教育委員会指導主事が訪問し、授業参観・指導助言を行っている。

【10月末現在の訪問回数 35回】

⇒ 各校で受検した RST の結果分析や、その結果を基にした今後の取組について教育委員会指導主事による指導助言を実施【市内13校】

(4) R S T だよりの発行(資料4)

⇒ 公立学校研究指導員会等における協議内容や講師よりアドバイスいただいた授業改善のポイント等をまとめ、市内全教員での共有化を図っている。

【10月末現在の発行回数 7回】

(5) その他

⇒ 管理職によるリーダーシップがR S の視点をもとにした授業改善を推進するための大きなポイントであるとの考えから、市内小・中学校長会議(年5回開催)や教頭会議(年2回開催)においても、R S T の取組について意見交換の時間を設定し、研修を重ねている。

2 リーディングスキルテストの結果から

□ 受検対象 ・ 児童生徒〔小学校5・6年生：584名、中学生：847名〕

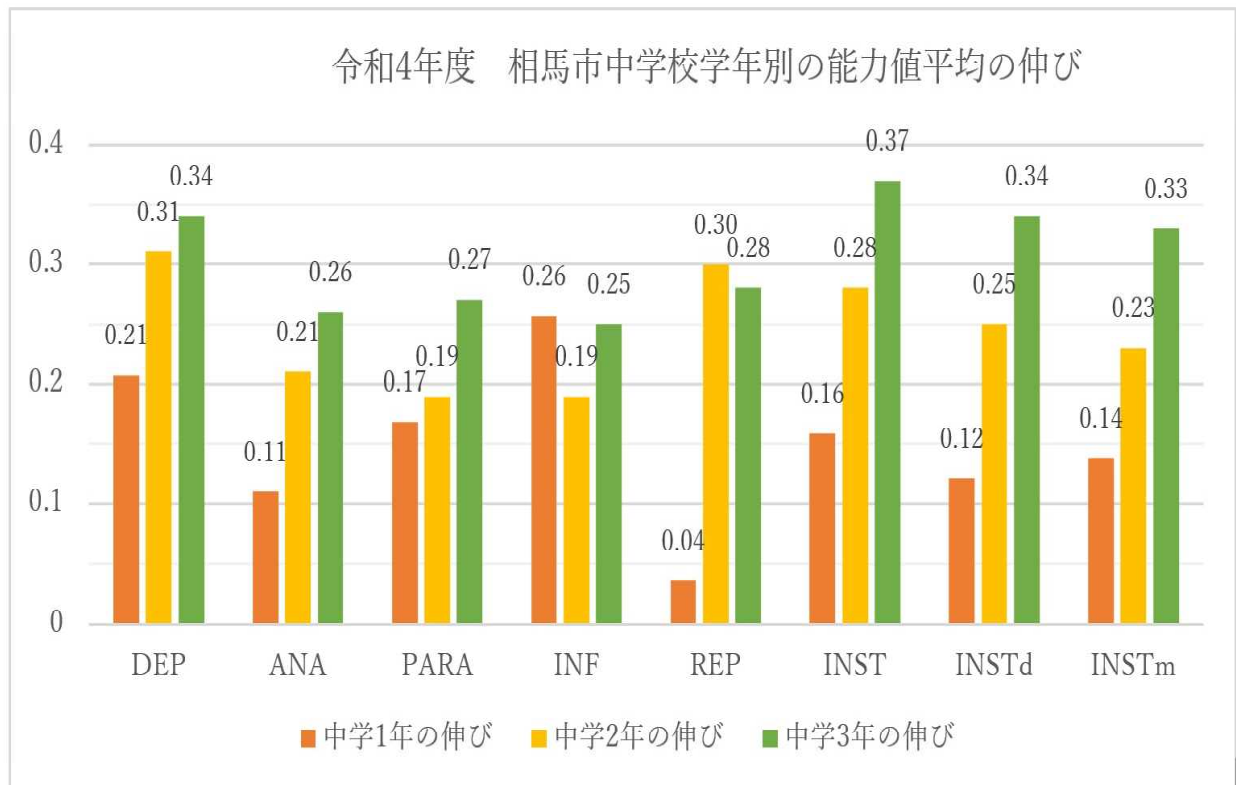
・ 教員〔指導に当たる教員 204名〕 計1635名

□ 実施時期 ・ 6月13日～7月15日 ※各学校の計画で実施

(1) 結果（経年比較から）

【中学生】

- ・どの学年も、どの分野においても能力平均値の値が伸びてい。（同一母集団）
- ・中学1年生より中学2年生、中学2年生より中学3年生と学年が上がるにつれて能力平均値の伸びが大きくなっている項目が多い。



※能力値 → 受験者の能力を表す値であり、中学生の平均が0になるよう設定されている。

DEP:係り受け解析 ANA:照応解決 PARA:同義文判定 INF:推論 REP:イメージ同定
INST:具体例同定 [INSTd:辞書・INSTm:理数]

(2) 全国学力・学習状況調査とRSTの結果について（資料5）

【小学校】

- ◎ 図やグラフをもとに説明をする問題の正答率が高かった。
- 示された場面の語句を理解し、選択肢の状況をとらえて解答する問題の正答率が低かった。

【中学校】

- ◎ 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を説明する問題の正答率が高かった。
- 箱ひげ図から分布の特徴を読み取る問題の正答率が低かった。

3 その他

- 今年度も福島県教育委員会「令和4年度 AI時代を生き抜く読解力向上事業」の研究協力校の指定を受け、中村第一中学校区の4校（中村一中・桜丘小・大野小・中村一小）を研究推進校として事業を推進する。

⇒ 令和4年11月10日（木）

中村一中、桜丘小を会場に研究公開を実施予定